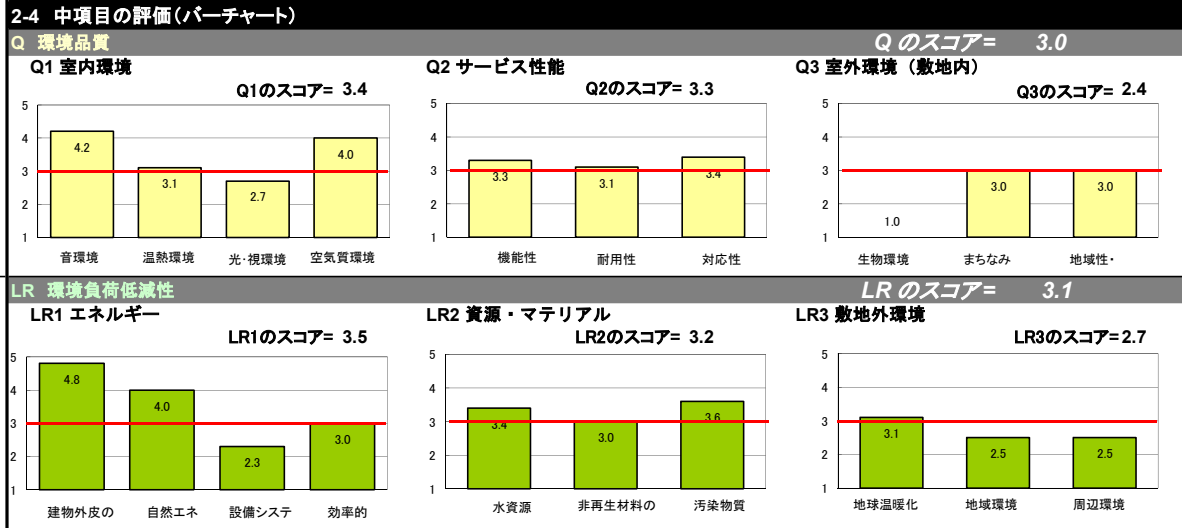
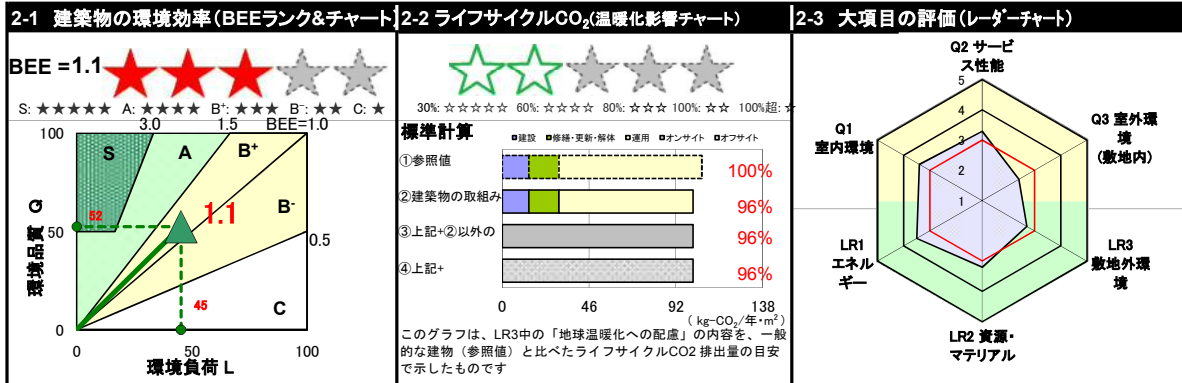


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)安城TC新館	階数	地下6階
建設地	愛知県安城市三河安城南町一丁目	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	1,130 人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年8月 予定	評価の実施日	2017年7月25日
敷地面積	2,649 m ²	作成者	空建築事務所
建築面積	982 m ²	確認日	2017年7月25日
延床面積	5,385 m ²	確認者	空建築事務所



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.1</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$





スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部		建物全体・共用部		共用部		居住・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質													3.0
Q1 室内環境													3.4
1 音環境													4.2
1.1 室内騒音レベル													4.2
1.2 遮音													4.6
1 開口部遮音性能													5.0
2 界壁遮音性能													4.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													-
1.3 吸音													4.0
天井(岩綿吸音)と床(カーペット)													0.20
2 温熱環境													3.1
2.1 室温制御													3.3
1 室温													3.0
2 外皮性能													3.0
3 ソーン別制御性													4.0
ペリメーターゾーンとインテリアゾーン													0.38
2.2 湿度制御													3.0
2.3 空調方式													3.0
3 光・視環境													2.7
3.1 昼光利用													1.8
1 昼光率													1.0
2 方位別開口													-
3 昼光利用設備													3.0
参考1) 算定図より、0.5~1.0程度 南面と東面													0.40
3.2 グレア対策													3.0
1 昼光制御													3.0
平均78ルクス													1.00
3.3 照度													4.0
3.4 照明制御													3.0
4 空気環境													4.0
4.1 発生源対策													5.0
1 化学汚染物質													5.0
F☆☆☆☆を90%以上													1.00
4.2 換気													3.0
1 換気量													5.0
2 自然換気性能													3.0
3 取り入れ外気への配慮													1.0
換気回数0.67回/基準0.3≒2.2倍													0.33
4.3 運用管理													3.0
1 CO ₂ の監視													1.0
2 喫煙の制御													5.0
全館禁煙													0.50
Q2 サービス性能													3.3
1 機能性													3.3
1.1 機能性・使いやすさ													2.3
1 広さ・収納性													1.0
2 高度情報通信設備対応													3.0
3 バリアフリー計画													3.0
1.2 心理性・快適性													4.0
1 広さ感・景観 (天井高)													4.0
2 リフレッシュベース													3.0
3 内装計画													5.0
インテリアパースによる内装計画 等													0.33
1.3 維持管理													4.0
1 維持管理に配慮した設計													4.0
2 維持管理用機能の確保													4.0
床面は防汚性の高い仕上げ 等 トイレはフロア毎に清掃流しあり 等													0.50
2 耐用性・信頼性													3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振													3.0
1 耐震性(建物のこわれにくさ)													3.0
2 免震・制震・制振性能													3.0
2.2 部品・部材の耐用年数													3.0
1 躯体材料の耐用年数													3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔													3.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔													3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔													3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔													3.0
6 主要設備機器の更新必要間隔													3.0
2.4 信頼性													3.8
1 空調・換気設備													5.0
2 給排水・衛生設備													3.0
3 電気設備													3.0
4 機械・配管支持方法													3.0
5 通信・情報設備													5.0
換気設備の系統区分 等 浸水の危険性がない 等													0.19

3 対応性・更新性				3.4	0.29				3.4
3.1 空間のゆとり				4.6	0.31				
1	階高のゆとり		階高4.1m	5.0	0.60				
2	空間の形状・自由さ		77.4m ² ÷710.85m ² =0.108	4.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31				
3.3 設備の更新性				3.0	0.38				
1	空調配管の更新性	②		3.0	0.17				
2	給排水管の更新性			3.0	0.17				
3	電気配線の更新性			3.0	0.11				
4	通信配線の更新性			3.0	0.11				
5	設備機器の更新性			3.0	0.22				
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30				2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30				3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性									3.1
LR1 エネルギー				-	0.40				3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			BMI値がレベル4相当	4.8	0.30				4.8
2 自然エネルギー利用			窓開閉による自然通風利用	4.0	0.20				4.0
3 設備システムの高効率化				2.3	0.30				2.3
4 効率的運用				3.0	0.20				3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00				
4.1	モニタリング			3.0	0.50				
4.2	運用管理体制			3.0	0.50				
集合住宅の評価				-	-				
4.1	モニタリング			-	-				
4.2	運用管理体制			-	-				
LR2 資源・マテリアル				-	0.30				3.2
1 水資源保護				3.4	0.15				3.4
1.1 節水			節水型便器の使用	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67				
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.63				3.0
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	1.0	0.21				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と仕上げが容易に分割可能 等	5.0	0.25				
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22				3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有害物質を含まない材料が4つ以上ある	5.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68				
1	消火剤			-	-				
2	発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50				
3	冷媒			3.0	0.50				
LR3 敷地外環境				-	0.30				2.7
1 地球温暖化への配慮		①	LCCO2が一般的な建物と同等	3.1	0.33				3.1
2 地域環境への配慮				2.5	0.33				2.5
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25				
1	雨水排水負荷低減	独自		3.0	0.25				
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25				
3	交通負荷抑制	独自	自転車置き場がある 等	5.0	0.25				
4	廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				2.5	0.33				2.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				-	-				
1	騒音	独自		-	-				
2	振動	独自		-	-				
3	悪臭			-	-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.67				
1	風害の抑制			-	-				
2	砂塵の抑制			-	-				
3	日照障害の抑制			3.0	1.00				
3.3 光害の抑制				1.6	0.33				
1	屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策			1.0	0.70				
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30				

重点項目スコアシート

(仮称)安城TC新館

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.1	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	建て主の希望する設計条件を満たし、経済性も配慮しつつ、同時に、長期に渡り、近隣のランドマークとなるようなオフィスビルを目指した。
Q1 室内環境	敷地東側の公園の広がり、室内に取り込むために、事務室の主要な開口面を公園側に向けた。
Q2 サービス性能	階高・天井高さをできるだけ高くし、将来の可変性・維持管理性能を高めた。
Q3 室外環境(敷地内)	公園側の道路境界より、できるだけ建物をセットバックさせ、公園や道路への圧迫感を低減した。
LR1 エネルギー	屋根は外断熱、ガラスはLow-E複層とし、室内の空調負荷の低減を図った。
LR2 資源・マテリアル	有害物質を含むマテリアルの仕様を避けた。
LR3 敷地外環境	燃焼機器を使用しておらず、建物周囲へ大気汚染物質の発生はない。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。